



TITLE:

大正十二年に於ける遊星の行路

AUTHOR(S):

CITATION:

大正十二年に於ける遊星の行路. 天界 1922, 3(25): 26-28

ISSUE DATE:

1922-12-25

URL:

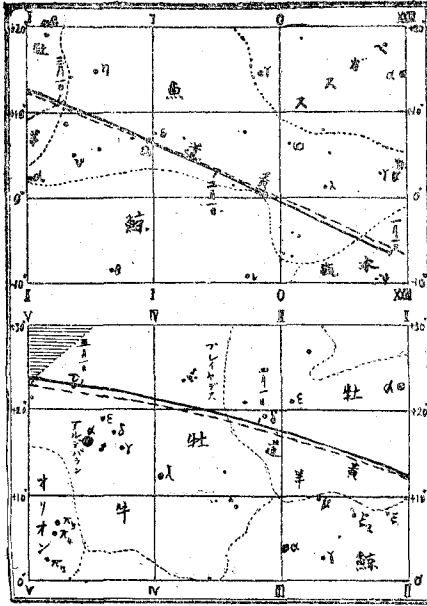
<http://hdl.handle.net/2433/159811>

RIGHT:

大正十二年に於ける遊星の行路

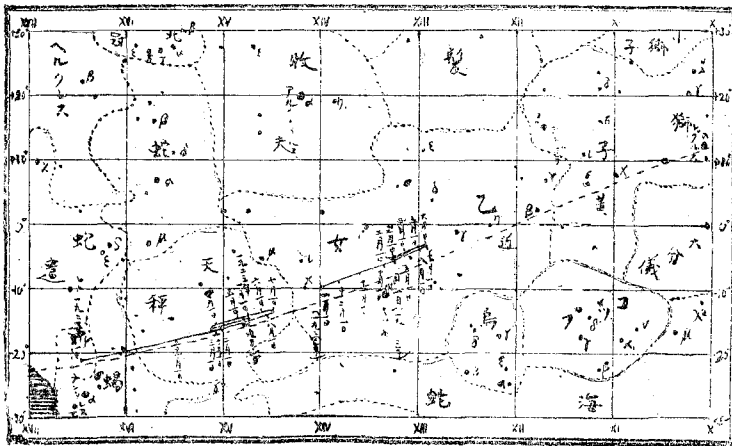
水星 一月十三日、五月六日、九月三日、十二月廿八日の東方最大離隔の頃には宵の星として見え、而して二月二十三日、六月二十三日及十月十五日の西方最大離隔の頃には曉の星として見える。水星は次の日附に月と合さる。即ち一月十八日、二月十四日、三月十六日、四月十七日、五月十七日、六月十三日、七月十三日、八月十四日、九月十二日、十月九日、十一月八日、十二月九日、水星は六月二十二日、金星と合さる。

金星 一年の半は曉の空に第一等の光を放つ。九月に太陽の光の中に没し、(順合は九月十日)十月に再現する。金星は月と次の日附に合さる。即ち一月十三日、二月十二日、三月十四日、四月十三日、五月十三日、六月十二日、七月十三日、八月十一日、九月十日、十月十一日、十一月十日、十二月十日、金星は三月九日蝸座ロー星と



一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二の月の星の行路

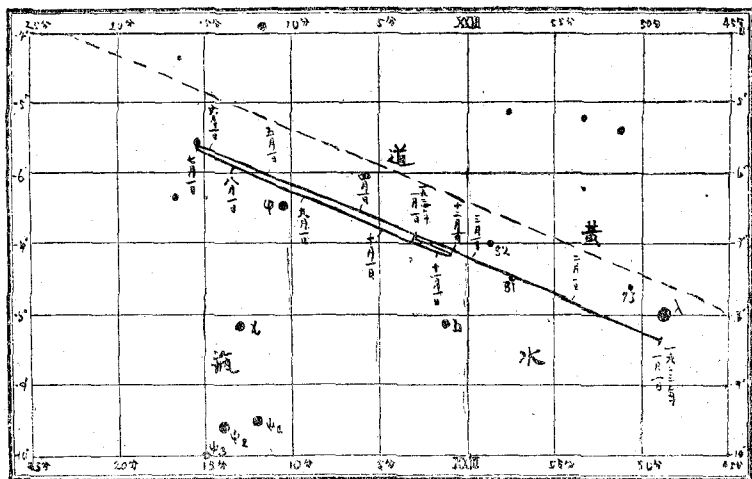
合さるなり、四月十四日天福星と合さる。水星 一年の半は夜の初裡に見え、毎日速に没し、そして水瓶座、魚座、牡羊座、牡牛座及雙子座を速に通過する。夏に太陽の光線中に隠れる。それは八月八日に一星と合さる。秋に東洋では再び曉の星となり獅子座、乙女座、天秤座を通過する。月は次の日附に火星の近隣を通る。即ち一月二十三日、二月二十日、三月二十一日、四月十九日、五月十八日、六月十六日、七月十五日、八月十三日、九月十日、十月九日、十一月六日、十二月二日。火星は十二月二日土星と接近する。水星 年初め水星は東洋では曉に見え、東に日を逐ふて愈々速かに進み、二月八日太陽と短象となる。春の中頃に木星は夜



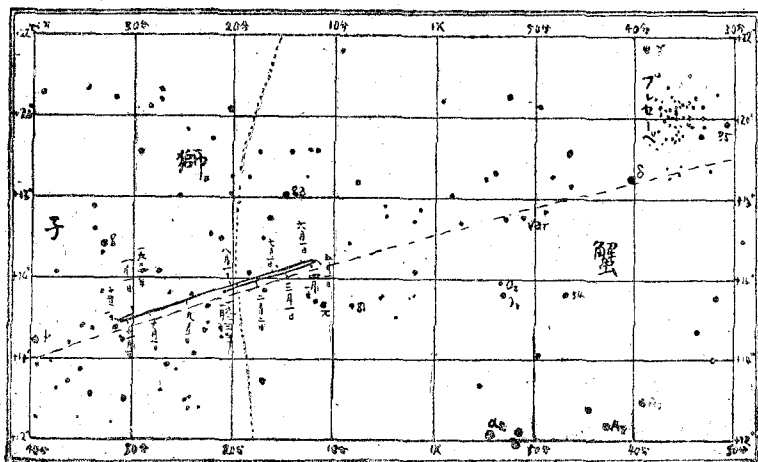
II 一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二の月の星の行路

通し輝き、五月五日に衝となる。夏には日々に速かに没し、八月三日(象)十一月には太陽の光線中に没する(十一月二十三日合)年末木星は東方に曉の微光の中に再び現はれる、こは本年の大部分天秤座に在り、そして六月六日、七月八日留となる。月は次の日附に木星の近隣を通る。一月十二日、二月八日、三月七日、四月四日、五月一日並に二十八日、六月二十四日、七月二十二日、八月十八日、九月十五日、十月十二日、十一月十日、十二月七日、

土星 本年中乙女座にあり、(留、一月三十一日、六月十八日)一月十一日に太陽と矩象となり、本年の初め夜半第二に輝く。次に東に日増しに速に進み、夜の大部分見える、そして春の初めの全夜見えて居り三月七日衝となる。夏には日増に早く没し(矩象七月七日)そして十月には太陽の光線中に消える(合は十月十七日)十一月には東洋に於て曙霞(アサヤケ)の中に再現する。土星は月と次の日附に合となる。即ち一月十日、二月六日、三月六日、四月二日と二十九日、五月二十六日、六月二十三日、七月二十日、八月十六日、九月十三日、十月十一日、十一月七日、十二月五日。八月十六日の合の時に



路行の星王天るけ於に年三二九一 III



路行の星王海るけ於に年三二九一 IV

月に由り土星は掩蔽される。

天王星 本年中水瓶座を通過する。太陽との合は三月五日、矩象は六月九日、衝は九月九日而して十二月七日更に矩象となる。天王星は十月二十一日月に由り掩蔽される。海王星 蟹座と獅子座との境界地方を通行する。太陽と二月六日衝となり、五月七日と十一月十四日とに矩象となり八月十一日合となる。

通信

大正十一年十一月末

東京にて 星 見小路

海老君!!!

ゴッリの『死せる人々』に出て来るトロイカの様に、炎々々燃える火の球が彗星の様に世界の果から果まであらゆる傳統的な認識の體系を破壊して狂奔して行く。幾萬もの人がそれか追いかけて走る。叫びながら又血眼になつて!!!

アルベルト、アインシュタイン。そうだ。彼の名は正にゴッリの三頭槌だ。そのうちならす警鐘は物凄い。だが聴くまいとするにはあまりに魅力なも過ぎる。そして誰でもが火の球を眼懸けて追ひかけるけれども息も切れ切れになつて眼がくらんで雪の曠野に打ち倒れた時にはもうトロイカの姿は影も形も見

えない。――

――私は今、やはり此等の人々の一番か弱い一人さして息切れしに追ひかけて居る。そしてやがて倒れてしまふかも知れない。

アルベルト、アインシュタイン。嗚呼、彼が馭するトロイカの勇しく又迅き事よ――(フアンタジヤ、アラキトシメイの一節)

○上田支部通信

一、七月十日の夜北佐久郡小諸小學校に於て山本理學士の遊星に關する講演及び天體觀測實地指導
二、七月二十四日の夜小縣郡縣小學校に於て同學士の恒星に關する講演及び天體觀測實地指導

三、八月三十一日同郡丸子小學校に於て同學士の講演開催演題「天文と人生」
四、九月一日北佐久郡岩村田小學校に於て同學士の天文講演開催
五、九月二日同好會員輕井澤に會し同學士外遊の壯行會を開く。

(右講演會中丸子は同町有志主催其他は學校又は學校組合會の主催)

○岡山支部十一月通信

一、天界研究會 十一日宮原幹事宅で開會。
二、支部例會 二十六日午後一時から岡山市立商業學校で例會を開き左の講演があつた
本年の天文學界 水野 千里氏

右講演中本年は天文學に關する著書が多數出版されたので、天文學研究者にまつて多幸の年といふべきで、或る人は天文化の時代來ると叫んで居る。その主なるものを左に少年少女向きのものは

1 淀川茂重著お星様からきいた話 三〇錢

(東洋出版社)

2 實業の日本社出版部編

兎と健三さんの夜の世界旅行記 一二〇錢

一般のものは、

1 淺野利三郎著 宇宙の話 一二〇錢

(日本評論社)

2 原田三夫著 星の科學 二〇〇錢

(誠文堂)

3 東京警醒社書店發行のもの六種

稍高等なるものは、

1 日下部四郎太、菊田善三共著 天文學汎論 六八〇錢 (内田老鶴圃)

2 一戸直藏譯 宇宙の進化 三八〇錢

(宇宙發展論改題) (大燈閣)

3 同上 宇宙創成史 三八〇錢

(宇宙開闢論史改題) (大燈閣)

次に、大正十二年曆、大正十二年略本曆、何れも大に改正せられて居るから是非一度は御覽下さい。

三、講演會 宮原幹事は二十六日第三神戶中學校で催された講演會に臨席し左の講話をした。

太陽系に就いて

太陽系に就いて